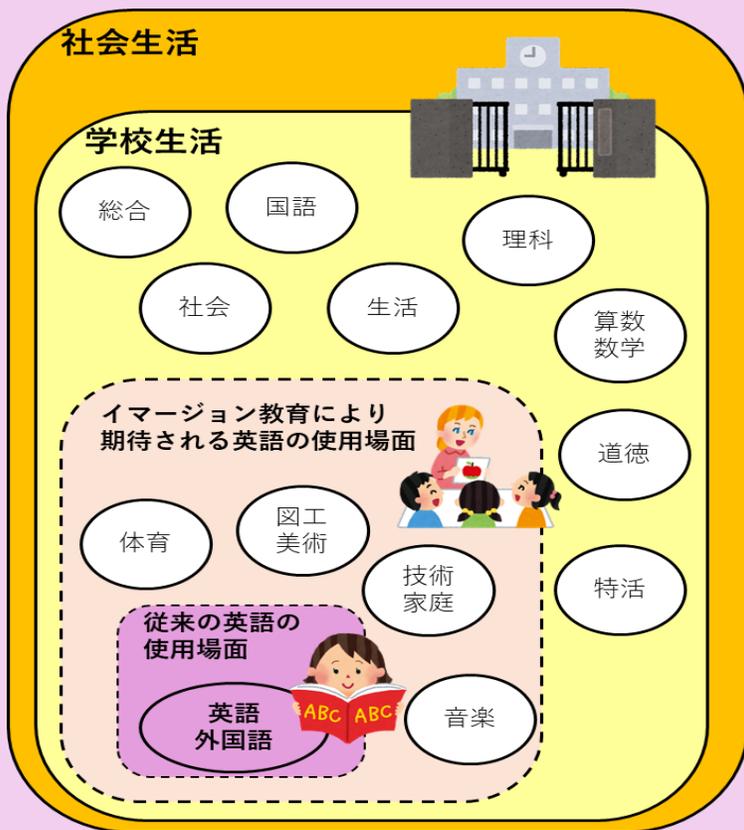


泉大津市 英語イマージョン教育の取組み

『イマージョン教育』とは...【immerse=浸す】

言語を習得する方法の一つで、その言語の環境に浸ることによって習得することをねらいとしています。

一般的には、英語を用いて他教科を学習することをさします。



児童生徒が授業以外の場面において、学習した英語を使う場面は現状多くはありません。

英語教育のさらなる充実のためには、児童生徒が英語を使用する場を増加させることが有効であると考え、令和4年度よりモデル校（小学校）1校で「英語イマージョン教育」を実施しています。

期待する効果

イマージョン教育

・英語使用場面の増加・目的意識と達成感のさらなる向上・英語の発話の抵抗感緩和

小学校

- 低学年からの導入で抵抗感を緩和
- 外国語活動⇒外国語科へのスムーズな移行
- 学校生活場面での英語使用の可能性

中学校

- より高度なやり取り・会話が可能
- 小学校までの外国語科の学びを活かす
- 発話・試行錯誤への抵抗感を緩和

技能4科から実施
○比較的日常的な指示や会話
○ジェスチャーの有効性



教員とALTの連携
○指導計画の見直し
○教員の英語力・指導力向上

モデル校には常駐のALTを配置したうえで、

- 低学年から始め、積み重ねることによる効果
- 指導や指示にジェスチャーを取り入れやすい
- 児童生徒も英語で発言する機会を作りやすい

という点を重視し、全学年の運動場での体育の授業を英語で行い、校内放送や学校行事等の学校生活の様々な場面に英語を積極的に取り入れながら英語教育を推進しています。

英語イマージョン教育実施による効果（児童・教員・保護者アンケートより）

児童

項目	R4			R5
	6月	10月	3月	6月
外国の人と英語を使って、話せるようになりたい。	75.0%	81.0%	82.6%	83.5%
自分の考えや思いを外国語を使って表現することができる。	61.0%	55.0%	55.4%	68.6%
英語で相手に伝えることは楽しい。	75.0%	78.0%	69.6%	82.5%
英語を使って話してみようと思う。	63.0%	70.0%	70.1%	78.9%
英語を使って自分のことを紹介できる。	84.0%	74.0%	61.4%	77.3%
Noble(ノーブル)先生と外国語でコミュニケーションを図ることができる。	89.0%	57.0%	60.3%	75.3%
Noble(ノーブル)先生に教えてもらうことで、分かることが増えたと思う。	87.0%	84.0%	87.0%	83.0%
英語による体育などの授業を受けることで、社会に出たときに役立つ力がついていると思う。		84.0%		86.6%
授業中まちがっても笑われない。		80.0%		92.8%
英語による体育(など)の授業でもわかる。		73.0%		84.0%

アンケートの考察

児童アンケートでは、ほとんどの項目において肯定的な回答が増加し、期待した効果が表れていることを見取ることができました。また、児童は即興的な実際の英語使用場面を経験することで、英語の授業だけでは少なかった、自分が伝えたいことを伝える難しさを感じる場面もあったようです。

教員・保護者のアンケートからは、すべての項目で肯定的な回答が高い水準を維持できています。

教員

項目	R4		R5
	10月	3月	6月
子どもたちの学習意欲や達成感は向上していると思う。	100.0%	100.0%	100.0%
子どもたちは試行錯誤を通して学ぶ姿勢が育まれていると思う。	93.0%	96.0%	93.8%
英語の授業で、英語の発話による授業を行いやすくなった。	100.0%	96.0%	100.0%
英語イマージョン教育により、自らの指導力向上につながったと思う。	86.0%	91.0%	87.5%

保護者

項目	R4		R5
	10月	3月	6月
英語イマージョン教育はお子様の英語力向上に有効な取組みだと思う。	93.4%	94.0%	94.6%
英語イマージョン教育はお子様の英語力向上以外にも有効な取組みになっていると思う。	92.7%	91.0%	91.0%

今後の展開

泉大津市では、モデル校での英語イマージョン教育の効果を大きくとらえ、その実践を市内小中学校へ広げ、深めていく必要があると考えています。

今後は、モデル校だけでなく、市内すべての小中学校で実施可能となる環境整備（ALTの配置や指導方法の確立）を検討し、英語教育のさらなる充実をめざしています。